

市町村名	伊是名村						
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	沖縄らしい風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-7	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24～平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり III-1-(1)		
事業内容	本村の魅力ある自然や文化・景観等を保全・活用による人と自然が共生するむらづくりを推進するため、地域と一体となった魅力的な観光地となるために必要なルールづくりに取り組み、伊是名らしい景観計画を策定する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,749	5,774	0		
		(b)予算現額	4,749	5,774	553		
		(c)増減額(b-a)	0	0	553		
		(d)繰越額	—	—	3,918		
		A. 計(b+d)	4,749	5,774	4,471		
	B. 執行済額		4,693	345	4,471		
	うち交付金充当額		3,754	276	3,576		
	次年度繰越額		0	3,918	—		
	執行率(%) (B/A)		98.8%	6.0%	100.0%		
予算の状況の説明		景観計画策定業務が請負比率94.1%で落札された。旅費について、県外先進地旅費2回分を予定していたが、業務の都合により不参加となった。さらに、策定業務に伴う作業が年度末までかかったことから、報告書・ガイドライン等の成果品の年度内納品が困難となり、業務委託費4,471千円を翌年度に繰り越した。平成26年4月に完了。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・景観計画策定	目 標	(検討委員会開催)	(景観計画策定)	()	()	
		実 績	検討委員会開催	景観計画策定			
		目 標	(計画(素案)策定)	()	()	()	
		実 績	計画(素案)策定				
達成状況説明	本年度は、前年度に策定した景観計画(素案)について検討を行うため、検討委員会の開催(2回)、庁内会議の開催(2回)、住民説明会(2回)を開催した。また、景観シンポジウムを開催して地域住民へ景観形成の取り組みや景観計画の内容について周知を図り、本年度の目標である伊是名村景観計画を策定することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	・景観計画策定	目 標	(ー)	(景観行政 団体移行)	(景観計画 策定)	()	()
		実 績		景観行政団体移行	景観計画策定		
	・景観条例制定	目 標	(ー)	(計画(素案)策定)	(条例制定)	()	()
		実 績		計画(素案)策定	条例(案)策定		
	進捗状況説明	業務を繰越したものの景観計画を策定することができた。また、景観形成を先導的に実施するための重点地区の設定も行った。しかしながら、景観条例については、景観助成等の措置について引き続き検討を要することで条例(案)にとどまった。景観シンポジウムを開催することで、景観計画の必要性や住民の景観形成への取り組みについて周知することができた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	景観計画の中で、村内で重点的に景観形成に取り組むエリア（重点地区）を設定し、村の景観形成を先導的に実施するための地区選定を行った。重点地区の設定に向け、対象地区にて住民説明会を行ったところ、設定するためのメリットについて住民から意見が出た。これは、前年度にも同様の意見がある。このため、条例制定と助成制度はセットで考える必要がある。また、景観形成についても、住民が主体となった取り組みや地域の機運を高めることから、景観行政を推進するための助成制度を創設する必要がある。	景観計画策定が目的である本事業は平成25年度で終了するものの、それだけでは景観形成の推進にはつながらない。そこで、助成制度を創設することで、住民との合意形成が図られ、景観形成の取り組みが可能となる。次年度において、景観助成制度について検討し、伊是名らしい景観づくりを推進したい。
今後の取り組み方針		
平成25年度で景観計画策定業務は完了し、一旦事業は終了する。しかしながら、計画を策定できても条例制定しなくては住民の景観形成や行政の景観推進にはつながらない。このため、次年度において、一括交付金を活用した景観助成制度を創設し、その助成制度を盛り込んだ条例制定につなげ、伊是名らしい景観の保全・形成、創出に取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>4,816</td><td>4,816</td><td>3,852</td><td>964</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 4,816千円 委託料 4,471千円 株式会社 国建 4,471千円 伊是名村景観計画策定委託業務 事務費 345千円 報酬、報償費、旅費					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	4,816	4,816	3,852	964	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
4,816	4,816	3,852	964	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について不用額は426千円であり、適正な規模であったと考えている。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成25年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	「尚円王(金丸)生誕の村」整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-7	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	本村は、第一尚氏王統の元祖及び第二尚氏王統の始祖尚円王生誕の地であり、数々の王家ゆかりの史跡・文化遺産が多く残されている。平成27年度に尚円王生誕600年を迎えるため、尚円王に関する史跡等の整備・復元や関連行事を行う。本村から琉球の歴史を県内外へ発信することと更なる誘客による観光振興を図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	11,355	14,000	42,973	—	
		(b)予算現額	14,000	14,000	56,685	—	
		(c)増減額(b-a)	2,645	0	13,712	—	
		(d)繰越額	—	—	—	36,400	
		A. 計(b+d)	14,000	14,000	56,685	36,400	
	B. 執行済額		0	13,629	8,568	30,780	
	うち交付金充当額		0	10,903	6,854	24,624	
	次年度繰越額		0	0	36,400	—	
	執行率(%) (B/A)		0.0%	97.4%	15.1%	84.6%	
予算の状況の説明		太鼓購入と公園実施設計・測量業務については指名競争入札で業者決定。公園工事着工のための県有地における道路占用許可手続きに不測の日数を要したことで公園整備の実施が困難となり次年度実施することとした。また、公園内に設置予定であった銅像制作に係る調整に時間がかかってしまい、銅像制作が困難となった為、委託費36,400千円を翌年度に繰り越した。平成26年12月に完了。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・尚円王ゆかりの文化財である「通水節」公園整備	目 標	(基本構想策定)	(公園整備)	()	()	
		実 績	基本構想策定	未整備			
	・老朽化した太鼓を新調	目 標	()	(長胴太鼓10、 太鼓台10、 ケース各種、撥)	()	()	
		実 績		長胴太鼓7、桶胴太鼓2、 附締太鼓2、太鼓台9、ケース各種、撥			
達成状況説明	平成25年度は前年度に策定した基本構想に基づいた事業を展開。公園設計や太鼓購入については、入札にて落札業者を決定した。 公園整備については、設計段階で県との協議(道路占用・用地取得など)に時間がかかってしまい実施は翌年度とした。太鼓の新調については、購入する太鼓の選定を団体(尚円太鼓)が必要とする太鼓に変更して購入した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・新調した太鼓を用いた伊是名村PR活動の実施	目 標	()	(村外3回、各種村内イベント)	()	()	()
		実 績		未実施			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	平成24年繰で策定した基本構想(H25.8月策定)に基づき事業を展開してきた。太鼓購入については、購入太鼓の選定、入札準備等に時間を要したことで平成26年2月の納品となったものの、新調前の太鼓によるPR活動を実施した。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	平成24年度に策定した基本構想に基づいて施設整備等を平成25年度は実施してきた。基本構想では村民全体で尚門王生誕600年を祝うことを目的としているため、村民を巻き込んだ取り組みにより機運を高める必要がある。そのためには各種事業の取組み、内容の検討、予算等を決定する実行委員会の設立は不可欠であり、早急に取り組まなくてはならなかった(平成26年5月に設立)。また、同時に、本村に不足している観光ガイド育成については、受け入れ態勢強化を図るための人材育成といったソフト面の充実を図る必要がある。	尚門王生誕600年の取組みには多くの村民を巻き込む必要があり、そのためには実行委員会設立は必要不可欠となっている。平成26年度は、生誕600年祭の1年前となることから、実行委員会を主体に関連事業を行い、本格的なPRを展開する必要がある。また、観光人材育成やITを活用した情報発信などさまざまな仕掛けを展開し、尚門王生誕地の村を県内外へPRしていく。また、観光客の満足度を向上させるための受け入れ体制強化を図るため、観光人材育成に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
平成26年度は、平成27年の尚門王生誕600年祭に向けての大事な年度となるため、早い段階で実行委員会を設立し、実行委員会が主体となってプレイベントや関連事業を展開していく。それと同時に、人材育成やITを活用した情報発信、村民劇公演などを通して尚門王生誕地の村を県内外へPRし、観光誘客を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39,348</td><td>39,348</td><td>31,478</td><td>7,870</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊是名村 39,348千円 委託料 33,720千円 株式会社 国建 2,940千円 株式会社 プロジェクト・コア 30,780千円 〔 通水節公園測量設計業務委託 〕 〔 北の松金乗馬銅像制作建立業務委託 〕 備品購入費 5,628千円 株式会社 浅野太鼓楽器店 〔 和太鼓、太鼓台、撥等購入 長胴太鼓7、桶胴太鼓2、附締太鼓2、太鼓台9、ケース各種、撥 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	39,348	39,348	31,478	7,870	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
39,348	39,348	31,478	7,870	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○銅像制作に係る業者選定については、古典音楽「通水節」の内容を銅像で表現するため、歌詞の内容や時代背景等に精通した作者でなければならないため、村出身の芸術家に依頼することとした。その芸術家が代表を務める業者と随意契約した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については公園整備を次年度実施することになり不用額17,337千円が生じた。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、事業完了後の検査を実施し、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村											
平成 2 5 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-④		伊是名らしい古民家修復・復元事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-2-(6)-7			
担当部課名	企画政策課			事業実施 (予定) 年度	平成25～29年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性に応じた生活基盤の整備 III-9			
事業内容	本村における貴重な資源である古民家の修復や、古民家が消失し空き屋敷となっている敷地に古民家(赤瓦屋根・サンゴ石垣・屋敷林)を復元し、Uターン・Iターン者向け定住住宅として定住促進を図るとともに観光地としてのイメージアップを図る。											
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況		25年度		25年度(繰越)		26年度		27年度		28年度	
			(a) 当初予算額		68,466 0							
			(b) 予算現額		82,502 8,871							
			(c) 増減額(b-a)		14,036 8,871							
			(d) 繰越額		— 54,655							
	A. 計(b+d)		82,502 63,526									
	B. 執行済額		8,164 63,526									
	うち交付金充当額		6,531 50,821									
	次年度繰越額		54,655 —									
	執行率(%) (B/A)		9.9% 100.0%									
予算の状況の説明		平成25年度は修復設計と復元設計を指名競争入札で業者決定した。当初、修復家屋の屋根の全葺き替えを予定していたが、古民家資材を最大限に利活用するための調査・加工による予算増額が生じた。また、使用可能な資材が当初よりも増えたことから、使用可能な資材の選別に不測の日数を要したことで、工事費63,526千円を繰越した。平成27年3月に完了。										
活動目標 (指標) 及び達成状況	H25活動目標(指標)			達成状況								
				25年度		26年度		27年度		28年度		
	・古民家改修	目 標	(改修2軒)	()		()		()				
		実 績	改修1軒									
	・古民家復元	目 標	(復元1軒)	()		()		()				
		実 績	未実施									
	・用地購入	目 標	(用地購入3件)	()		()		()				
		実 績	用地購入1件									
	達成 状況 説明	平成25年度は改修工事2件、復元1件を予定していたが改修工事1件の達成となった。改修工事については、再利用する古材の解体調査に長時間を要し、また、作業が多岐にわたり経費も嵩んだことから予定を下回ることとなった。復元工事については、予定していた用地の地権者が交渉に応じなかったことで未実施となった。用地購入について、1件購入、1件無償譲渡、1件は既述のとおり用地交渉に応じなかったことで予定を下回った。										
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H25成果目標(指標)			基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)			
・古民家改修と復元をおこない、Uターン・Iターン者向け定住住宅を3世帯提供		目 標	()	(3世帯)	()	()	()	()				
		実 績		1世帯								
		目 標	()	()	()	()	()	()				
		実 績										
進捗 状況 説明		平成25年度は改修・復元合わせて3軒を定住住宅として整備する予定であった。しかしながら、改修における解体調査・建築に予想以上の時間と経費がかかったことで、古民家改修工事1軒と古民家復元工事の実施が困難となり、目標を下回ることとなった。										

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) 平成25年度は事業初年度であったため、設計・工事が単年度で実施できるものとして事業をスタートさせたものの、改修設計・改修工事については長時間を要し、また、工事費も嵩むことから単年度での実施は厳しい。特に再利用材については加工・薬剤注入等を島外で行うなど、当初想定しなかった工程が出たため、今後の改修工事については実施するか(復元のみにするか)を含めて検討する。	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) 原状の進捗では1ターン・Uターン者のニーズに十分応えられないことから、事業の効率的な推進のため、改修家屋については、工事実施前年度で設計業務を終える。また、用地取得についても、前年度で先行取得を確実に行うなど、年度当初で何戸の住宅が供給できるか把握し、定住住宅を計画的・効率的に提供していく。 また、全国移住ナビ等を活用して定住住宅の周知を行うなど、1ターン・Uターン予定者に情報を提供していく。
	今後の取り組み方針 古民家改修についての事業採択要件について村民へ周知するとともに、今後の改修工事については実施するかを含めて検討していく。また、復元住宅整備箇所の選定について地域と連携して取り組んでいく。 平成25年度で整備した古民家改修住宅1軒については、定住住宅として供給しなければならないことから、設置及び管理に関する条例(平成27年3月制定)等を整備して定住促進につなげる。	

今後の取り組み方針

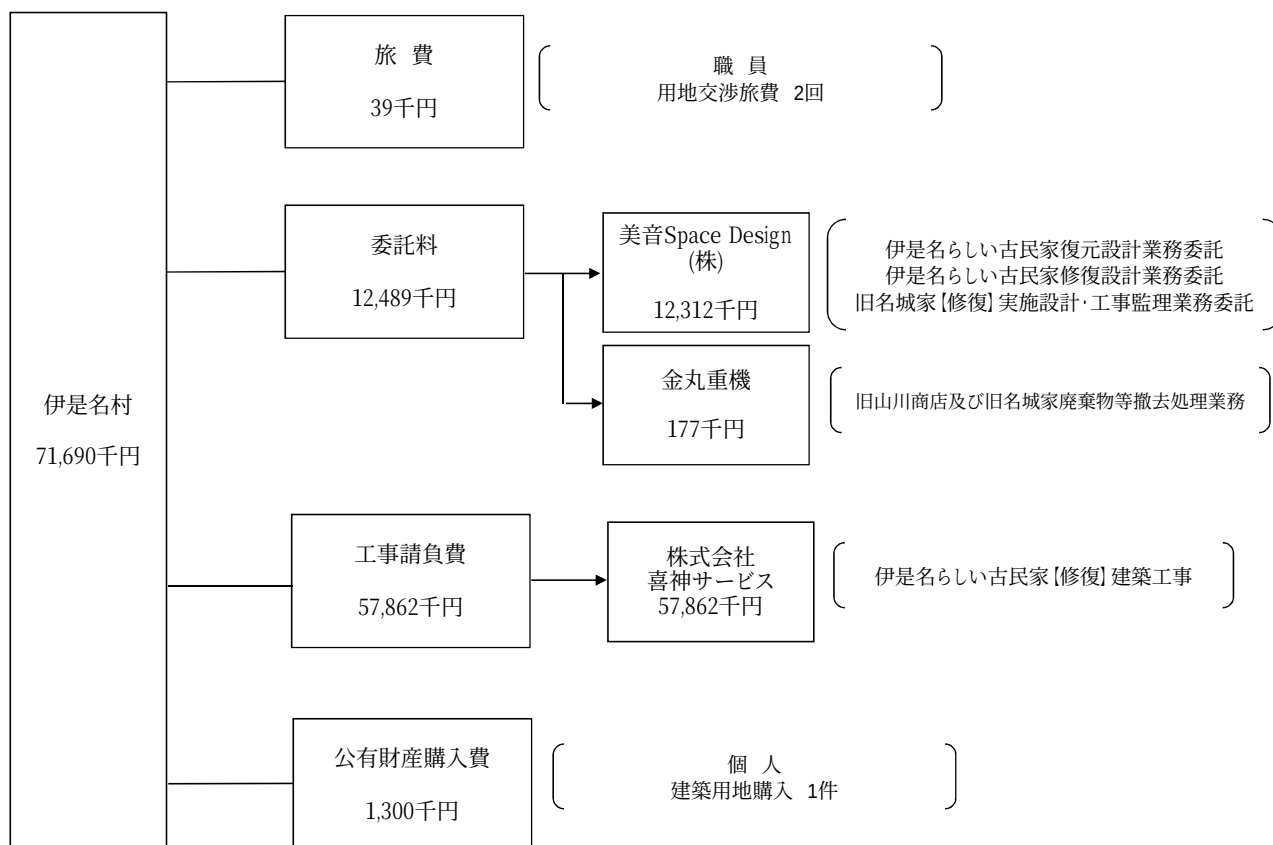
古民家改修についての事業採択要件について村民へ周知するとともに、今後の改修工事については実施するかを含めて検討していく。また、復元住宅整備箇所の選定について地域と連携して取り組んでいく。

平成25年度で整備した古民家改修住宅1軒については、定住住宅として供給しなければならないことから、設置及び管理に関する条例（H27年3月制定）等を整備して定住促進につなげる。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
71,690	71,690	57,352	14,338	0



資金の 流れ、 費目、 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については、用地費購入が1件となったことで不 用額が生じたが適正な規模であったと考える。 ○費目・使途について事業完了後の検査を実施し、適正で あった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	